

植物多様性センターの「ミクリの実」

武蔵野ゾーンの池にミクリの実が熟し始めています。ミクリは水辺に生える多年生の抽水植物で、全国、東京都いずれでも絶滅危惧植物です。実がクリに似ていることから、ミクリ(実栗)と呼ばれていますが、基部に雌頭花が少数つき先端に雄頭花が数個つながるようすも、一見クリの花に似ています。ところが、実際にはイガに見える花柱の基部の子房がそれぞれ堅果となるので、全くの「他人の空似」であることがわかります。



開花：基部の大きいのが雌頭花、先端の小さいのは雄頭花



雌頭花：基部には3枚の花被があり、先端の白いのは柱頭



雄頭花：1つの雄花は3～4個の花被と3本の雄しべからなる



若い果実：柱頭が枯れて黒くなり、緑色の花柱がイガ状に残る